



有田市 洪水ハザードマップ

災害対応では日頃からの備えが重要です。“自らの安全は自らが守る”ための行動や対応をとることが被害を少なくすることにつながります。

「有田市 洪水ハザードマップ」は、住民のみなさんに防災に関する情報を提供し、事前の備えに役立てていただくことを目的に作成しました。



このマップで次のようなことを確認してください

- 避難場所までの経路
- 自宅周辺の被害想定
- 情報の入手先
- 非常持ち出し品・非常備蓄品の準備

わが家の防災メモ

わが家の避難場所

家族がはなればなれになった時の集合場所

家族の連絡先

名前	生年月日	血液型	会社や学校の連絡先	携帯電話番号

インターネットによる防災情報の入手先

有田市の避難所、津波や雨量・河川水位等の情報は、パソコンや携帯電話を使ってインターネットからも確認することができます。

有田市ホームページ	有田市の避難所や防災に関する情報を提供
http://www.pref.wakayama.lg.jp/bousai/	
気象庁	全国の気象や災害、洪水予報などの情報を提供
http://www.jma.go.jp/jma/	
和歌山地方気象台	気象に関する警報、注意報を発表
http://www.jma-net.go.jp/wakayama/	
和歌山県砂防課	土砂災害警戒情報などの情報を提供
http://kasensaboo1.pref.wakayama.lg.jp/new/	
川の防災情報	全国の雨量や水位などの情報を提供
http://www.river.go.jp/	

いざというときの連絡先

有田市役所	有田市消防署	有田警察署
☎ 0737-83-1111(代表)	☎ 0737-83-0119	☎ 0737-83-0110

災害用伝言サービス

地震や洪水などの大災害発生時は、電話利用が急激に増加し、電話がつながりにくい状況が数日間続くことがあります。このような場合は、「災害用伝言ダイヤル」「災害用伝言板サービス」「災害用ブロードバンド伝言板(web171)」が開設されます。

災害用伝言ダイヤル

このサービスは、大規模な災害が発生した場合、「声の伝言板」「安否情報」の役割をする電話サービスです。被災地内とその他の地域の人々との間などで、伝言の登録・再生することができます。

体験利用料 ●毎月1日・15日●1月~3日 ●災害間際・防災ボランティア週間

災害用伝言板サービス

携帯電話を使って被災者は安否状況の伝言を登録し、外部の人がその伝言を確認できます。携帯電話のトップメニューから「災害用伝言板」を開き、伝言の登録・確認を行います。

災害用ブロードバンド伝言板(web171) <https://www.web171.jp/> ◀左記URLへアクセスし、画面内に従って操作してください。

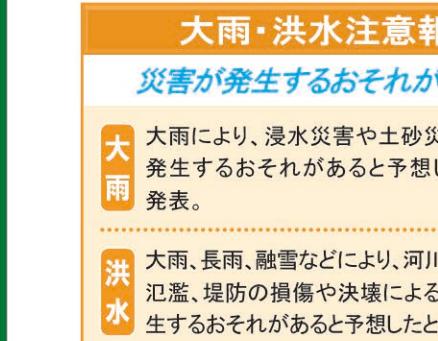
インターネットを利用して被災者の安否確認を行う伝言板です。伝言情報の登録・閲覧が可能です。

発行 有田市役所 防災安全課 〒649-0392 和歌山県有田市箕島50番地

TEL 0737-83-1111(代表) FAX 0737-82-1725 有田市ホームページ <http://www.city.arida.lg.jp/> (平成27年3月作成)

大雨・洪水に関する注意報・警報

下記のような場合、気象庁から「注意報」「警報」が発表されます。さらに、警報の発表基準をはるかに超える豪雨等が予想され、重大な災害の危険性が著しく高まっている場合、「特別警報」を発表し、最大限の警戒を呼び掛けます。

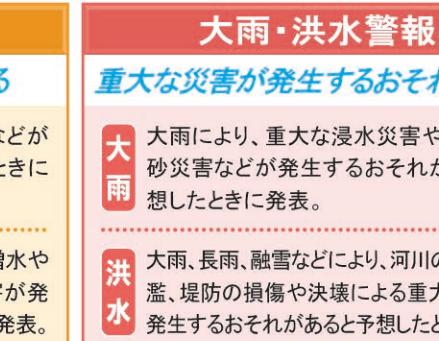


災害が発生するおそれがある

大雨により、浸水災害や土砂災害などが発生するおそれがあると予想したときに発表。

大雨、長雨、融雪などにより、河川の増水や氾濫、堤防の損傷や決壊による重大な災害が発生するおそれがあると予想したときに発表。

「洪水」は、全国約400の河川において指定河川洪水予報を発表しているため、特別警報の設定はありません。

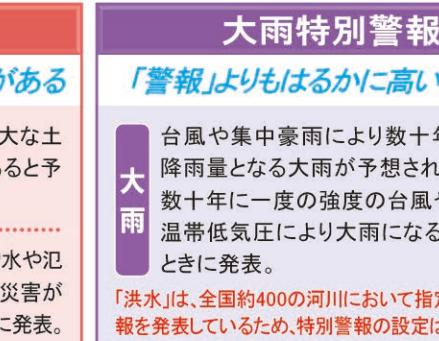


重大な災害が発生するおそれがある

大雨により、集中豪雨により数十年に一度の降水量となる大雨が予想され、もしくは数十年に一度の強度の台風や同程度の台風による低気圧により大雨になると予想したときに発表。

大雨、長雨、融雪などにより、河川の増水や氾濫、堤防の損傷や決壊による重大な災害が発生するおそれがあると予想したときに発表。

「洪水」は、全国約400の河川において指定河川洪水予報を発表しているため、特別警報の設定はありません。



「警報」よりもはるかに高い危険度

台風や集中豪雨により数十年に一度の降水量となる大雨が予想され、もしくは数十年に一度の強度の台風や同程度の台風による低気圧により大雨になると予想したときに発表。

大雨、長雨、融雪などにより、河川の増水や氾濫、堤防の損傷や決壊による重大な災害が発生するおそれがあると予想したときに発表。

「洪水」は、全国約400の河川において指定河川洪水予報を発表しているため、特別警報の設定はありません。

●大雨などのときは、テレビやラジオなどで最新の注意報・警報・特別警報の発表状況を確認するようにしましょう。また、NTTテレホンサービス「177」や気象庁ホームページ(<http://www.jma.go.jp/>)でも確認できます。

●有田市に注意報・警報が発表される際の雨量基準などについては、気象庁ホームページでも知ることができます。

河川のはん濫発生情報

川の水位が上昇し、洪水のおそれがあるとき、国土交通省から河川の水位情報が発表され、報道機関などを通じて一般に周知されます。河川の水位に関する情報は危険に応じて、水位名と合わせて伝達されます。



雨の強さと降り方(1時間雨量)

※気象庁資料参照



地面一面に水たまりができる、話し声が聞き取りにくくなります。長雨になりそうな警戒が必要です。

土砂降りの雨、傘をさしても濡れてしまうほど雨です。小河川ははん濫、また、かけ崩れの心配もあります。

激しい雨、山崩れ、かけ崩れが起こります。道路規制も行われます。避難の準備。

進むように隣り、壁で寝起きします。屋内でも寝起きで白っぽくなります。大雨による大規模な災害が発生するおそれがあります。

島苦くなるような圧迫感があります。大雨による大規模な災害が発生するおそれがあります。

強く、厳重な警戒が必要です。

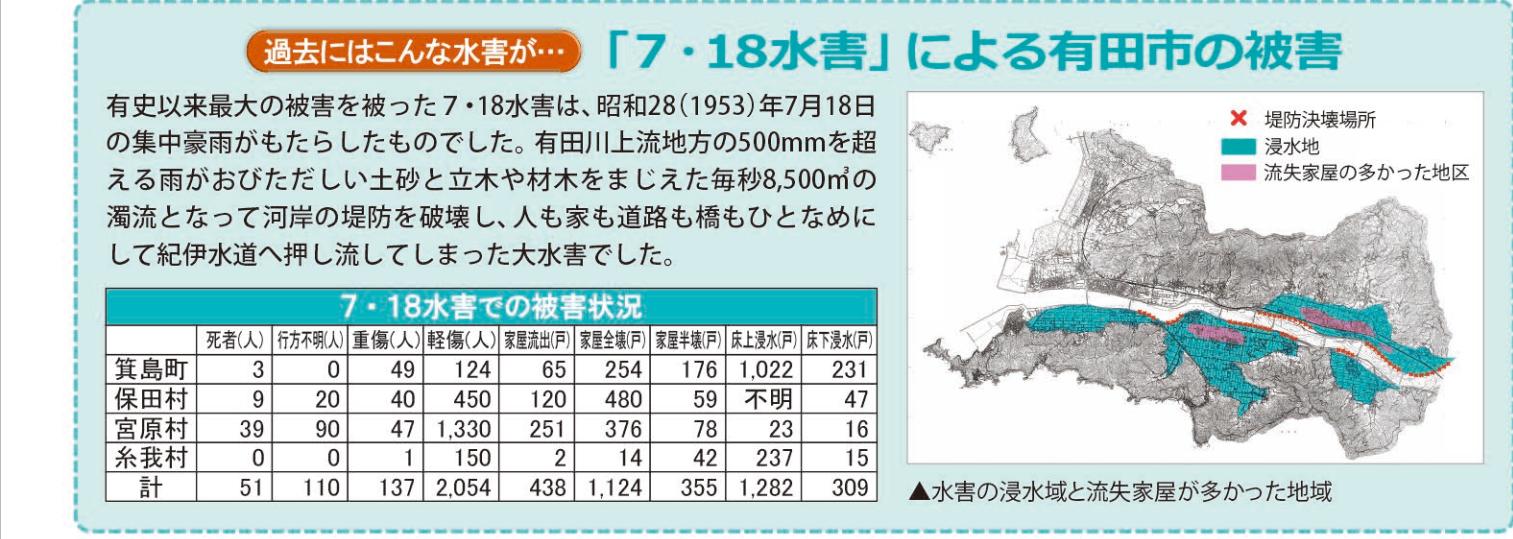
避難の心得

いざというときのために、日頃から避難に必要なものを整理し、避難の手順について話し合っておきましょう。また災害の危険性が想定された場合には、情報を入手して、早めの避難を心がけましょう。



水平避難と垂直避難

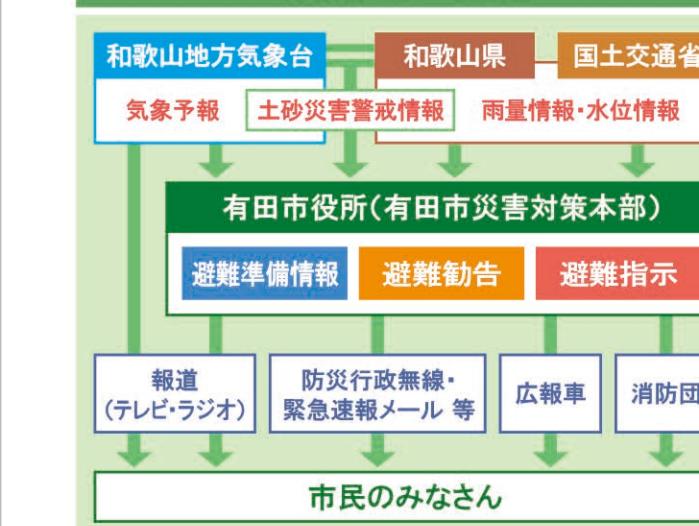
災害では早めの避難が重要です。ただし、すでに避難経路が浸水しているなど、危険が間近に迫っている状況での無理な避難行動はできるだけ避けなければなりません。そのような場合は、避難場所への移動(水平避難)だけでなく、近隣ビルの高層階や自宅の2階といった高い場所への移動(垂直避難)を行い、救助を待つという判断も必要です。



有田市の防災体制と避難情報

災害発生のおそれのあるときや、災害の発生が確実なときには『災害対策本部』を設置し、対応します。また、災害の危険が高まり、避難が必要となる場合には、避難情報を発令します。内容と周囲の状況に注意して行動しましょう。

情報伝達の経路



避難情報の種類と、るべき行動

発令時の状況	るべき行動
災害による人的被害の発生する可能性が高まっている状況。	高齢の方、子ども、障がいがある方など、避難に時間を要する方は、早くして自動的な避難行動を開始してください。
災害による人的被害の発生する可能性が明らかに高まった状況。	指定された避難所へ避難行動を開始してください。
切迫した状況	